



ふきのとう

第33号

【発行】
 社会福祉法人
 秋田県社会福祉事業団

〒010-1412
 秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
 TEL 018-889-8360 FAX 018-889-8361
 HP <http://www.fukinoto.or.jp>
 e-mail mail@fukinoto.or.jp



【目次】

- P 2 ・ 障害者支援センター御所野について
- P 3 ・ 退職者からのメッセージ
- P 5 ・ 退職者からのメッセージ
・ 表彰
- P 6 ・ 実戦発表会及び基調講演
・ 平成三十年度職員提案受賞提案

障害者支援センター御所野全景

理事長あいさつ



社会福祉法人

秋田県社会福祉事業団

理事長 熊谷 淳

淳

雪解けとともに一斉に芽吹き始めた草木に做ってリフレッシュし、新しい年度の仕事に取り組みたいと思います。

この四月からは、利用者に寄り添える新しいサービスが幾つか始まります。

まず、障害者支援センター御所野が中央シルバエリアの一角にオープンします。全て個室で、寝たままなどでも利用できる三種の機械浴槽、利用者が趣味活動を行うスペースや思い思いに過ごせるラウンジなども備えています。買い物や娯楽などにも便利で、重度の身体障がい等を持つ方の自立をもっとお手伝いできることになりそうです。

心身障害者コロニーでは、行動障がい特性に配慮した個室の確保などの改修を行います。強度行動障がいのある方の入所の受入れを始めます。県内のモデル的な取組を目指して、専門的な支援プログラムの充実も図っていきます。

由利本荘地域生活支援センターでは、平成二十八年度から始めた放課後等デイサービスの利用者が予想以上に増えており、羽後本荘駅の近くに二つめの事業所を開設します。

こうしたサービスの拡充を進めるためにも、事業団で働いていただいている人材の確保が待ったなしで求められており、新たな取り組みも始めます。

まず、地元志向の強い高校生等に選択してもらえよう、自宅から近い勤務地に限った職員採用に取り組みたいと思います。一方、定年退職してからもキャリアを生かして仕事ができるよう、継続雇用の受け皿の開口を広げ、この四月からサービス管理責任者などの専門職として個別支援計画の策定などに当たってまいります。

また、夜勤の支援などを担う非正規職員の確保は、緊急の課題です。このため、新年度からボーナスの引き上げを図りますが、国の新たな処遇改善や同一労働同一賃金の動向を踏まえ、二の矢、三の矢の待遇改善に取り組んでいきたいと思っております。

職員と議論を重ねながら、バランスの取れた給与の見直しにも取り組み、時代の変化にいち早く対応し、新年度も更なるバージョンアップを目指します。

新施設情報
「障害者支援センター御所野について」

平成31年4月オープン

ラウンジ



食堂
デイルーム



居室



浴室



【問い合わせ先】
 〒010-1412
 秋田県秋田市御所野
 下堤五丁目一番地四号
 TEL 018-838-5607
 FAX 018-838-5608



- 【実施サービス】**
- 生活介護事業（定員40名）
 - 施設入所支援事業（定員40名）
 - 短期入所事業（定員2名）
 - 日中一時支援事業（短期入所と併せて2名）

平成三十一年四月一日にオープンする障害者支援センター御所野は、当事業団が自主設置する入所施設の第1号となります。

全室個室でプライバシーに配慮しており、通常の浴槽に加え、身体状況に応じた利用できる3種類の介護浴槽を備えています。

また、採光に配慮した明るく過ごしやすい生活空間を整備し、趣味活動等を行うデイルームやリラクゼーションできるラウンジを随所に配置しており、快適にお過ごしいただけます。

利用される方が望む暮らしと生活を支えるため、専門スタッフがサポートいたします。

定年退職者からのメッセージ



秋田県社会福祉事業団
事務局長 木村盛郎

平成の時代もわずかとなりました。平成元年五月、産休代替職員として身体障害者更生訓練センター勤務にはじまり、今日まで早や三十年の月日が経ちました。この間、縁あって出会うことができた多くの皆様には、たいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。今春、更生訓練センターは、障害者支援センター御所野として新たにスタートします。利用される皆様に喜んでいただけるよう願っております。また、法人としては五十五年の歴史を積み重ねてきました。職員の皆様には当法人百年企業を目指していただき、新たな歴史を刻む取り組みに期待しております。これまで、本当にありがとうございました。



秋田県中央地区
老人福祉総合エリア
所長 小澤由起子

昭和五十五年七月に社会福祉事業団に採用されてから、三十八年数か月の時間が経ってしまったことに、昨日の事の様でもあり、感慨深く思いを馳せるこの頃です。その間、更生訓練センター・心身障害者コロニー・中央エリアとご縁があり、勤めさせて頂きました。特に女性にとっては、仕事と家庭の両立は第一には家族の支え、そして諸先輩・同僚・後輩たちからの協力や励ましが必要で、ここまで来ることは出来ませんでした。利用者様はじめ、出会った全ての方々に感謝の気持ち一杯です。ありがとうございます。この後は一区切りつけ、今まで適当にやっていた事や出来なかつた事に取り組み、健康で穏やかに時間を重ねられたらと思っております。最後に事業団の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



秋田県心身障害者コロニー
管理者 小澤久範

昭和五十六年に福祉に関する知識が不足している状況で事業団にお世話になり、あつと言う間に三十八年が経過して、退職を迎えることとなりました。諸先輩の御指導、そして温かい励ましのお蔭で頑張ってきたことが出来ました。また、コロニー、清水水園、阿桜園、訓練センターの利用者の皆様から様々なことを学ばせていただき、自分が成長することが出来たのは、利用者さんからの教えが大きかったと思っております。事業団は様々な福祉サービスを展開している県内最大級の社会福祉法人です。皆様は、事業団の職員だと言うことに自信と誇りを持って頑張つて、秋田県の事業団が日本一の福祉サービスを提供していると言われる日が来ることを期待しています。



秋田県心身障害者コロニー
総務部長 佐藤隆

この度、三十五年余りの長きにわたり秋田県社会福祉事業団職員として皆様方の温かいご支援により大過なく勤めることができ、定年退職を迎えることとなりました。今日を迎えることができたのも、ひとえに素晴らしい諸先輩や、上司の皆様方をはじめ同僚、後輩と出会い過ぎることができたことにつきまosen。社会人といえ福祉の知識もままならないまま、この世界に飛び込み大勢の方々のご指導とご支援により充実した日々を過ごすことができましたことを深く感謝申し上げます。定年退職という人生の大きな転機を迎え、今後は得た貴重な経験と共に、ゆとりある楽しい人生にしたいと思っておりますので今後とも変わらぬご支援、おつきあいをお願い申し上げます。最後に秋田県社会福祉事業団の一層のご発展と皆様方のご健康を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



秋田県心身障害者コロニー
課長補佐(保健師) 佐藤忍
診療所

利用者の皆様とご家族様の支えになることができればと思ひ、二十七年前に保健師として就任しました。それまで助産師をしていた私にとってコロニーは驚きの連続でした。障がいには負けず明るくいいきと生活している利用者の皆様には、強く心を打たれました。また、澁谷先生をはじめ、職員の皆様の献身的な姿には頭の下がる思いがします。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ力不足を感じる毎日ですが、これからも何かしら貢献できればと考えています。これまで支えて下さった利用者、職員の皆様本当にありがとうございました。



秋田県心身障害者コロニー
主査(看護師) 田中貴久子
診療所

十年前、尊敬する先生(医師)の下で働きたいと思ひ、コロニーに再就職した日をしっかりと覚えています。福祉施設と医療の関係、連携の難しさや福祉に関わる様々なことなど学ぶことが沢山ありました。特に感染症時期になるとピリピリ身が引き締まる思いでした。多くの利用者さんと接する事が出来たこと、福祉医療に役立てた事、嬉しく思い感謝します。十年間ありがとうございました。やっぱり笑顔が一番ね、利用者さん。ありがとうございます。孫七山の大自然。毎日声かけ今日も元気をありがとうございます。沢山の思い出ありがとうございます。ねっ！コロニーの皆さんお元気で。

定年退職者からのメッセージ



秋田県心身障害者コロナー
課長補佐 佐藤 怜子
創生支援課

皆さまのお蔭で退職まで勤められたことに感謝しております。思い起こせば、昭和五十五年の春に研修生としてコロナーにお世話になってから早四十年あまりの歳月が経ちました。秋田県身体障害者更生訓練センターで職員採用となり、高清水園での勤務を経て再びコロナーに戻って十四年が過ぎました。最後の勤務がコロナーで幸せに思っております。通勤の大変さはありましたが、天気の良い時は雄大にそびえる烏海山を仰ぎ、春には望海の丘の桜の回廊、朝日や夕日に輝く日本海の美しさ、多くの方々が体験できないことと思います。改めまして厚くお礼申し上げます。なお引き続きコロナーで勤務することになりましたので、今後ともよろしくお願い致します。



秋田県心身障害者コロナー
主査 大庭 育子
創生支援課

昭和五十四年短大を卒業後、コロナーの敷地内にあった「町立烏海の園 保育所」で産休代替保母として勤務してました。小さな子供は好きでしたが、その数年後、桜ヶ丘創生園五葉寮という施設で仕事をさせていただくことになりました。当時、創生園には若い女性が多数おり、秋田市の畜産会館に採用試験を受けに行きました。この時に採用された研修生の人たちは今でもささやかですが交流があります。その後、三十数年間、秋田県社会福祉事業団にお世話になり、この度無事定年を迎えることが出来ました。今まで続けてこられたのも、周りの皆様に恵まれ、支えられてきたおかげだと思っております。長い間本当にありがとうございます。今後、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



秋田県心身障害者コロナー
課長補佐 皆川 一博
銀杏支援課

私が秋田の地に足を踏み入れたのは、昭和五十三年の四月でした。当時、コロナーには研修制度があり、私も半年の間研修生として午前は講義、午後は寮外勤務という名の下に、側溝の整備や残菜処理場、倉庫類の建設等に毎日汗を流していました。今思えば究極のOJTだったかも知れませんが、事業団人生のスタートは研修生からでしたが、その事業団人生も間もなく終わりを迎えようとしています。秋田に来て四十年。この間、多くの方たちに支えられ、ただただ「感謝」の一言に尽きます。長きに渡り、本当にありがとうございます。



秋田県心身障害者コロナー
課長 栗津 博子
赤光支援課

思い起こせば社会に出てまもなく、障がいのある子供たちが生活する阿松学園を紹介していただいたことが福祉に携わる一歩となりました。この仕事を続けようと思えたのは、そこでの子供たちと過ごす時間が私にとってとても楽しく掛け替えのないことだったからです。あれから数十年を経て、今コロナーの高齢の利用者の方々からたくさんのお話を学ぶ中で、改めて人の一生に関わる尊い仕事であることに気づかされ、おかげさまで自身も成長できたのではないかと思っております。結びに、これからの利用者の方のご多幸をお祈り申し上げますとともに、長年に渡りご指導いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



秋田県心身障害者コロナー
課長補佐 櫻田 仁志
開成支援課

平成三年、秋田県社会福祉事業団に採用となり、組織の一員として二十七年十一月の月日が経過しました。右も左も分からないまま福祉分野に足を踏み入れた私ですが、諸先輩方の温かい言葉やアドバイスをいただきながら、何とかここまで頑張ってきたことが出来ました。これも皆様方のご支援のおかげと感謝いたしております。本当に長い間お世話になりました。



由利本荘地域生活支援センター
所長 北林 静江
水林事業所

昭和五十五年コロナーの産休代替職員として初めて障がいを持っていらっしゃる人と接し、ここで働きたいと思ったのが始まりでした。その後、臨時職員、研修生を経て、昭和五十七年十月に事業団職員として採用となり、今、退職を迎えることができるのは、諸先輩方をはじめ、同僚の方々に支えていただいたおかげだと深く感謝しております。振り返れば、苦しかったことも多かったはずなのに、楽しかったことばかり思い出されます。春の花見、夏のジャガイモ掘り、秋の運動会などたくさんの方々の行事に参加する事で関わりを持つことができました。事業団職員として、多くの方と巡り合い、いろいろなことを学ばせていただけたことは、私の財産となりました。本当にありがとうございます。



定年退職者からのメッセージ



阿桜園
園長 高橋 イク子

事業団職員としてお世話になり二十数年、阿桜園で採用となり、療育・児童・成人相談と様々な業務を経験させていただき、今、阿桜園で卒業を迎えられることに、感慨深いものを感じます。

これまで、職員・利用者の皆さんをはじめ多くの方々に、支えていただきました。こうして退職の日を迎えられるのも、今までお世話になった皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

福祉を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、「平成」に続く新しい時代に向かって、これからの事業団の益々の発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。
長い間ありがとうございました。



やまばと園 支援課
課長 上野 悦子

昭和五十五年七月一日に事業団に採用されてから今日まで、仕事を続けられてきたこと、ひとえに皆様のご協力あつてのことと感謝いたします。特に、各事業所で私を育ててくださった利用者の皆様には、心から「ありがとうございます」と申し上げます。利用者さんの言葉にならない色々な表現に四苦八苦しうまくいかなないこと、余計に混乱させてしまったことなど失敗も多々あります。それでも、しっかりと向き合えば、必ず道は見えてくると教えていただきました。その実感が、仕事に対するモチベーションになりました。今後の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



やまばと園 支援課
主査 仙道 恵美子

福祉の仕事に携わって三十六年です。阿桜園に二十年、やまばと園に十一年、心身障害者コロニーに五年間勤めさせて頂きました。どこに居ても、楽しく仕事をする事ができました。沢山の方々にお世話になり、本当にありがとうございました。毎日の食事と軽い運動を欠かさず、利用者さんたちと共に、健康第一に頑張ってください。お世話になりました。

早期退職者

秋田県中央地区老人福祉総合エリア

主事 高橋 生子

秋田県南部老人福祉総合エリア

統括技能技師(調理) 今川 順子

高清水園

課長 大場 智

主事 加賀谷 美紀

技能技師(庁務) 中村 満

秋田県心身障害者コロニー

課長補佐 佐々木 一也

主事 眞田 亜衣

技能技師(電気) 鈴木 正暁

皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

表彰

○社会福祉功労者厚生労働大臣表彰

社会福祉事業従事功労者

秋田県心身障害者コロニー

管理者 小澤 久範

課長補佐 皆川 一博

○全国社会福祉協議会 会長表彰

永年勤続功労

秋田県心身障害者コロニー

課長 栗津 博子

やまばと園 主査 仙道 恵美子

○全国社会福祉事業団協議会 永年勤続者表彰

秋田県南部老人福祉総合エリア

施設長補佐 赤川 幸

高清水園

課長補佐 木村 英司

秋田県心身障害者コロニー

主査 小松 由希

主任技能技師 三浦 桂

技能技師 佐々木 憲人

技能技師 佐藤 美江子

技能技師 岡部 明子

由利本荘地域生活支援センター

課長補佐 三浦 智幸

主査 阿部 清子

阿桜園

課長補佐 鈴木 正人

秋田県身体障害者更生訓練センター

主査 菊地 奈緒

受章おめでとございました

社会福祉事業団実践発表会及び基調講演

平成三十年十二月十七日、秋田拠点センターA L ☆ V Eを会場に「秋田県社会福祉事業団実践発表会」を開催し、一般市民の方々を含め、九十三名の参加がありました。

実践発表では、秋田県心身障害者コロナーから「秋田県心身障害者コロナーにおける高齢化の現状とその取り組みくその人らしい生活をめざして〜」について、由利本荘地域生活支援センターからは「地域生活支援のこれから」について二つの実践報告がありました。助言者である秋田大学教育文化学部講師の鈴木徹氏から、実践報告を総括して講評頂きました。鈴木氏からは、一人ひとりの「しあわせ」についてお話があり、私たち職員が為

す支援そのものを考える貴重な機会となりました。

また、基調講演では、講師に日本相談支援専門員協会顧問の福岡寿氏をお招きし、「それぞれの思いをかたちにする支援」と題し、ご講演を頂きました。思いをかたちにする支援とは、ご本人がいろいろな経験や体験をする中で、私たちはチームで後ろをついて行きながら一人ひとりの心の動きを確かめ、ご本人が胸に落ちる暮らしに繋げていくということと理解できます。日ごろ私たちが行っている支援が、真に本人中心の支援であるか否か、福岡氏の熱いメッセージを聴きながら、秋田も頑張ろうとあらためて思いました。



平成30年度 職員提案受賞について

平成二十一年度より実施している職員提案制度も、今年で十回目を数えました。職員自身が、日々の業務の中で感じている利用者サービスや業務内容等について、改善案を自由に提案し、良い提案については法人、施設として積極的に取り組むこととしています。今年度は八十一件の提案がなされ、四名の方が受賞となりました。今後も創意工夫にあふれた提案を期待しつつ、サービスの向上を目指して取り組んでまいります。

提案件数 八十一件

表彰	提案者		テーマ
	所属	役職氏名	
優秀賞	由利本荘地域生活支援センター	主任 佐々木寛子	障がい者の職場定着のための体制作りについて
優良賞	南部老人福祉総合エリア	准職員 判田 実	旅費の支給について
	北部老人福祉総合エリア	課長補佐 鈴木理絵子	事業団法人研修のレジメのサイボウズ掲載について
		課長 堀田 学	「防災・災害対策研修」の実施について

たくさんのご応募ありがとうございました。

★FACEBOOK随時更新中★

ホームページからも

閲覧できます。

詳細は、コチラから↓

